

その常識、変えてみせる。

SHIFT



2024年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月10日

上場会社名 株式会社SHIFT 上場取引所 東
コード番号 3697 URL <https://www.shiftinc.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 丹下 大
問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 服部 太一 (TEL) 03-6809-1165
四半期報告書提出予定日 2024年7月11日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第3四半期の連結業績(2023年9月1日~2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第3四半期	81,143	28.1	7,063	△14.2	7,263	△15.9	3,295	△17.2
2023年8月期第3四半期	63,355	34.8	8,234	56.1	8,635	48.3	3,979	7.1

(注) 包括利益 2024年8月期第3四半期 3,177百万円(△21.6%) 2023年8月期第3四半期 4,053百万円(17.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第3四半期	187.32	187.13
2023年8月期第3四半期	225.78	225.45

(注) 1. 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。

(注) 2. 2023年8月期末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年8月期第3四半期の数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第3四半期	61,054	32,826	52.5
2023年8月期	49,530	29,578	58.5

(参考) 自己資本 2024年8月期第3四半期 32,075百万円 2023年8月期 28,958百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年8月期	—	0.00	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	114,000~ 122,000	29.5~ 38.6	11,600~ 14,600	0.3~ 26.2	11,600~ 14,600	△3.3 ~21.7	7,300~ 10,000	16.9~ 60.1	415.17~ 568.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規	7社 (社名)	株式会社ヒューマンシステム、株式会社ヒューマンシステムテクノロジー、インフィニック株式会社、株式会社SHIFT Enterprise Consulting、株式会社ネットワールド、株式会社クラブネッツ、株式会社バリューワン
除外	4社 (社名)	株式会社IFTEC、株式会社さうなし、株式会社ヒューマンシステムテクノロジー、株式会社A-STAR

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年8月期3Q	17,830,878株	2023年8月期	17,823,114株
② 期末自己株式数	2024年8月期3Q	227,134株	2023年8月期	239,804株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年8月期3Q	17,591,002株	2023年8月期3Q	17,627,254株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式 (2024年8月期3Q 226,590株、2023年8月期 239,340株) が含まれております。また、期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。(2024年8月期3Q 235,002株、2023年8月期3Q 186,830株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10
(企業結合等関係)	11
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、2023年5月1日に行われた当社を吸収分割承継会社とし、EQIQ株式会社を吸収分割会社とする吸収分割について前第3四半期連結会計期間に暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定したため、前年同四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

(1) 経営成績に関する説明

① 当第3四半期における業績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、このところ足踏みも見られますが、雇用・所得環境の改善や、各種政策の効果もあり、国内経済は緩やかに回復しております。一方で、金融資本市場の変動影響や海外景気の下振れなどもあり国内外における経済的な見通しは不透明な状況が続いております。

当社グループがサービスを提供するソフトウェア関連市場においては、「2025年の崖」（複雑化・老朽化・ブラックボックス化した既存システムが残存した場合に想定される国際競争力の低下や我が国経済の停滞など）が迫りくる中で、2025年の先を見据えて、産業界全体に変革を起こすDX（デジタル・トランスフォーメーション）はますます加速しております。そのため、クラウドサービスやアジャイル型の開発手法などを用いたIT投資は活況の一途であり、AIの利活用による生産性の向上も欠かせない技術の一つであります。

また、リモートワークの進展により、ネットワークやアプリケーションを中心として社会全体におけるセキュリティ領域への注目が集まる中、マルウェアへの感染やソフトウェアの脆弱性を悪用した攻撃等によるセキュリティリスクの顕在化が進み、シフトレフトなどソフトウェア開発段階からの早期のセキュリティ対策も求められております。

こうした経営環境の中、当社グループでは売上高1,000億円企業に向けた成長戦略「SHIFT1000ーシフトワンサウザンドー」を掲げており、その実現に向け、引き続き営業力の強化による顧客基盤の拡大、構造化・数式化され科学されたM&A戦略の実現、IT業界の構造変化に合わせたサービス提供力の向上、多様な人材獲得手法の展開を重点課題として取り組んでおります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における、当社グループの業績は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	63,355	81,143	17,787	28.1%
営業利益	8,234	7,063	△1,171	△14.2%
EBITDA(※)	9,394	9,085	△309	△3.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,979	3,295	△684	△17.2%

※EBITDAは、営業利益にのれん以外の無形固定資産を含む固定資産の減価償却費、のれん償却費を加算して算定しております。当社グループでは、将来の成長のための投資の源泉たる現金の創出力を測る指標として有用であると判断し、EBITDAもモニタリングの対象としております。

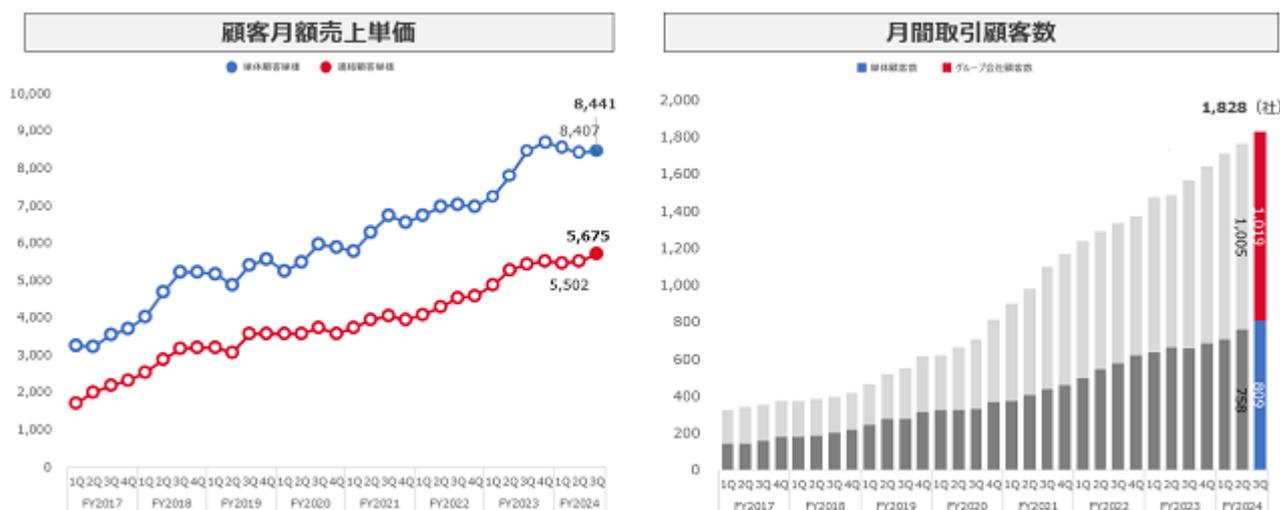
② 業績予測に対する進捗と主要なKPIの推移

当社グループは、「新しい価値の概念を追求し、誠実に世の中に価値を提供する」という企業理念のもと、持続的に社会課題を解決する会社としての成長を目指しております。その実現のマイルストーンとして売上高目標を設定しており、企業理念の実現と企業価値の最大化を図ってまいります。なお、当第3四半期連結累計期間における業績予想値（第3四半期累計）に対する進捗率は以下のとおりであります。

	業績予想値 (通期) (百万円)	当第3四半期 実績値 (百万円)	進捗率	(参考) 前第3四半期における 業績予想値(通期) に対する進捗率
売上高	114,000～122,000	81,143	71.2%～66.5%	72.8%
営業利益	11,600～14,600	7,063	60.9%～48.4%	87.6%
経常利益	11,600～14,600	7,263	62.6%～49.7%	90.9%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	7,300～10,000	3,295	45.1%～33.0%	63.2%

上記のとおり、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高成長を伴った業績予想値という目標のなか、売上高は順調に推移しております。また、当第3四半期連結累計期間において、順調な採用に対し相対的に案件獲得が遅延し稼働率が低下したことや、積極的なM&Aの推進に伴うアドバイザー費用等の一過性のコストを計上したことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は売上高ほどの伸びとはなりませんでした。

一方、顧客単価、顧客数、エンジニア単価、エンジニア数などのKPIは上昇トレンドを継続しておりますが、当第3四半期連結累計期間においては、前述の稼働率低下などを背景に一時的に減少しているKPIもあります。当第3四半期連結累計期間におけるこれらの指標及び2017年8月期からの四半期ごとの推移は以下のとおりであります。



顧客月額売上単価及び月間取引顧客数の算出方法は、以下のとおりであります。なお、これらの計算における売上高には、顧客単価や顧客数をKPIとして業績を管理することが適切ではないと認められる一部の事業（ライセンス販売や教育サービス等）に係る売上高を含めておりません。

(ア) 顧客月額売上単価(単体)

$$\text{顧客月額売上単価(単体)} = \frac{\text{単体売上高}}{\text{単体顧客数(合計)}}$$

単体売上高	売上高と、売上計上予定額(稼働は開始しているが検収前のため翌月以降に計上される予定の売上高)を当月の稼働の実績に基づいて月別に按分した額を、四半期で合計した数値
単体顧客数(合計)	売上高を計上した顧客数と、売上高を計上していないが稼働があった顧客数を四半期で合計した数値

(イ) 顧客月額売上単価 (連結)

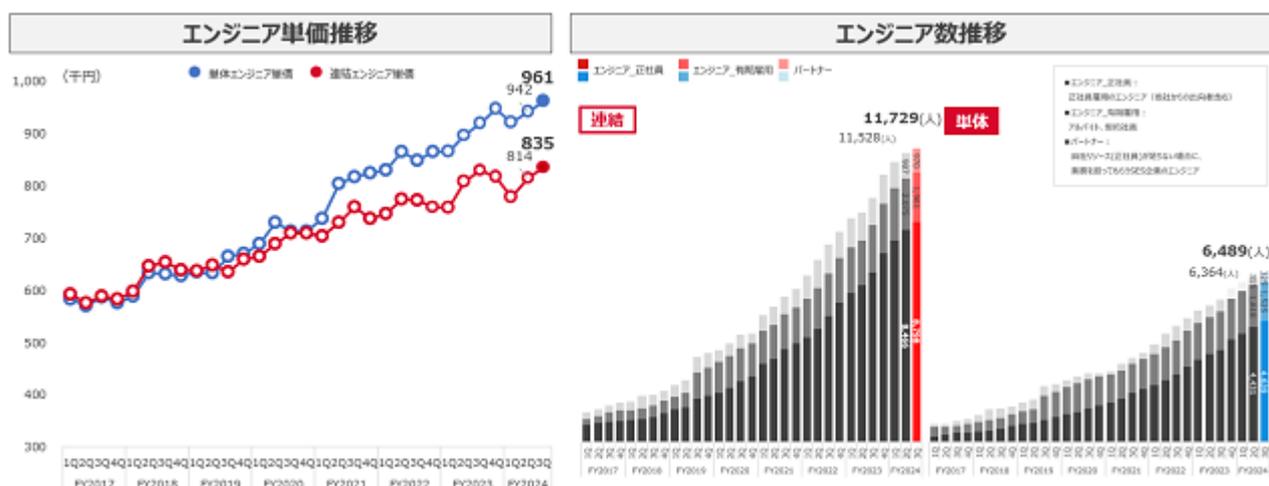
$$\text{顧客月額売上単価 (連結)} = \frac{\text{単体売上高} + \text{連結子会社売上高}}{\text{単体顧客数 (合計)} + \text{連結子会社顧客数 (合計)}}$$

単体売上高	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社売上高	月次の売上高を四半期で合計した数値
単体顧客数 (合計)	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社顧客数 (合計)	月次の売上高を計上した顧客数を四半期で合計した数値

(ウ) 月間取引顧客数

$$\text{月間取引顧客数} = \text{単体顧客数 (平均)} + \text{連結子会社顧客数 (平均)}$$

単体顧客数 (平均)	その月に売上高を計上した顧客の数と、その月に売上高を計上していないが稼働があった顧客の数を合計し、四半期で平均した数値
連結子会社顧客数 (平均)	その月に売上高を計上した顧客の数を四半期で平均した数値



エンジニア単価及びエンジニア数推移の算出方法は以下のとおりであります。なお、これらの計算における売上高には、エンジニア単価として業績を管理することが適切ではないと認められる一部の事業（ライセンス販売や教育サービス等）に係る売上高を含めておりません。

(ア) エンジニア単価 (単体)

$$\text{エンジニア単価 (単体)} = \frac{\text{単体売上高}}{\text{単体エンジニア数}}$$

単体売上高	エンジニアが稼働しない売上高を除く売上高
単体エンジニア数	売上を計上した案件に係る稼働があったエンジニアの稼働時間と、その管理に携わった人員の稼働時間を合計し、人月換算した数値

(イ) エンジニア単価 (連結)

$$\text{エンジニア単価 (連結)} = \frac{\text{単体売上高} + \text{連結子会社売上高}}{\text{単体エンジニア数} + \text{連結子会社エンジニア数}}$$

単体売上高	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社売上高	月次の売上高を四半期で合計した売上高
単体エンジニア数	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社エンジニア数	月次の所属エンジニア数を四半期で合計した数値

(ウ) エンジニア数推移

エンジニア数推移におけるエンジニア数は、四半期末時点において、雇用契約が締結されている当社グループの正社員、契約社員及びアルバイトの所属人数並びに協力会社の従業員契約者数の合算数値であります。

③ セグメント別の業績

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(ア) ソフトウェアテスト関連サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	42,075	52,430	10,355	24.6%
売上総利益	14,833	17,519	2,685	18.1%
販売費及び一般管理費	4,780	6,119	1,338	28.0%
うち取得関連費用	138	205	67	48.5%
うちのれん償却費	1	1	△0	△0.0%
営業利益	10,053	11,400	1,347	13.4%
EBITDA	10,173	11,551	1,378	13.6%

ソフトウェアテスト関連サービスでは、主にソフトウェアテスト・品質保証、コンサルティング・PMO、カスタマーサポート、セキュリティといったサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間では、既存顧客に対する顧客目線での提案の徹底により、顧客月額売上単価が上昇した結果、当第3四半期連結累計期間のソフトウェアテスト関連サービスの売上高は52,430百万円（前年同期比24.6%増）、営業利益は11,400百万円（前年同期比13.4%増）となりました。なお、ソフトウェアテスト関連サービスセグメントの販売費及び一般管理費に含まれているM&Aに係る取得関連費用は、205百万円（前年同期比48.5%増）となっております。

(イ) ソフトウェア開発関連サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	19,242	25,703	6,460	33.6%
売上総利益	5,146	6,283	1,136	22.1%
販売費及び一般管理費	3,627	5,219	1,591	43.9%
うち取得関連費用	29	5	△24	△81.8%
うちのれん償却費	374	616	242	64.7%
営業利益	1,519	1,064	△454	△29.9%
EBITDA	2,013	1,813	△199	△9.9%

ソフトウェア開発関連サービスでは、主にシステム開発、システム性能改善、IT戦略策定、システム企画・設計、エンジニアマッチングプラットフォーム、データ分析などのソフトウェア開発プロセスに直接的に関与するサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間では、順調なエンジニア採用及びグループ会社間の連携強化によって、当第3四半期連結累計期間のソフトウェア開発関連サービスの売上高は25,703百万円（前年同期比33.6%増）となりました。一方、一部の連結子会社において、順調な採用に対し相対的に案件獲得が遅延し稼働率が低下したことにより、営業利益は1,064百万円（前年同期比29.9%減）となりました。なお、ソフトウェア開発関連サービスセグメントの販売費及び一般管理費に含まれているM&Aに係る取得関連費用は、5百万円（前年同期比81.8%減）となっております。

(ウ)その他近接サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	4,830	5,974	1,143	23.7%
売上総利益	1,718	2,459	740	43.1%
販売費及び一般管理費	1,371	2,429	1,057	77.1%
うち取得関連費用	4	62	57	—%
うちのれん償却費	317	530	213	67.5%
営業利益	346	30	△316	△91.3%
EBITDA	839	884	44	5.3%

その他近接サービスでは、主にWeb企画制作、マーケティング、キッティング、クラウドサービス、ローカライズ、M&A/PMI (Post Merger Integration) など、ソフトウェア開発と近接するマーケットで、当社の既存事業とは異なるビジネスモデルに基づくサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間では、収益性の高い連結子会社の取得により、売上高、売上総利益ともに増加し、当第3四半期連結累計期間のその他近接サービスの売上高は5,974百万円（前年同期比23.7%増）となりました。一方、一部の連結子会社において、好採算案件の終了や案件獲得の遅延により、営業利益は30百万円（前年同期比91.3%減）となりました。なお、その他近接サービスセグメントの販売費及び一般管理費に含まれているM&Aに係る取得関連費用は、62百万円（前年同期比12.5倍）となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産につきましては、前連結会計年度末に比べ11,523百万円増加し、61,054百万円となりました。これは主に、評価損の計上等により投資有価証券が1,455百万円減少しましたが、本社移転等に伴い有形固定資産が4,468百万円、借入等により現金及び預金が3,574百万円、株式会社クラブネット等の取得によりのれんが3,361百万円、売上増加により売掛金及び契約資産が859百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債につきましては、前連結会計年度末と比べ8,276百万円増加し、28,228百万円となりました。これは主に、法人税等の納付により未払法人税等が2,069百万円減少したものの、運転資金等の確保を目的とした新規借入により短期借入金が2,080百万円、M&A資金の確保を目的として新規借入により長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が7,885百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ3,247百万円増加し、32,826百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が3,295百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月期の業績予想につきましては、2023年10月12日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,591	21,166
受取手形、売掛金及び契約資産	11,048	11,907
棚卸資産	733	993
その他	1,149	1,508
貸倒引当金	△9	△15
流動資産合計	30,513	35,560
固定資産		
有形固定資産	1,961	6,429
無形固定資産		
のれん	8,997	12,358
その他	1,431	1,411
無形固定資産合計	10,428	13,769
投資その他の資産		
投資有価証券	3,081	1,626
その他	3,602	3,733
貸倒引当金	△56	△66
投資その他の資産合計	6,627	5,293
固定資産合計	19,017	25,493
資産合計	49,530	61,054
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,530	1,552
短期借入金	2,470	4,550
1年内返済予定の長期借入金	1,066	2,968
未払費用	3,891	4,497
未払法人税等	2,807	737
賞与引当金	341	794
その他	6,212	5,411
流動負債合計	18,319	20,512
固定負債		
長期借入金	1,367	7,351
退職給付に係る負債	34	32
その他	230	332
固定負債合計	1,632	7,715
負債合計	19,951	28,228
純資産の部		
株主資本		
資本金	11	20
資本剰余金	15,844	15,854
利益剰余金	17,901	21,196
自己株式	△4,948	△4,940
株主資本合計	28,809	32,130
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	118	△84
為替換算調整勘定	30	29
その他の包括利益累計額合計	148	△55
株式引受権	140	273
新株予約権	27	25
非支配株主持分	451	451
純資産合計	29,578	32,826
負債純資産合計	49,530	61,054

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2024年5月31日)
売上高	63,355	81,143
売上原価	41,986	55,433
売上総利益	21,368	25,709
販売費及び一般管理費	13,133	18,646
営業利益	8,234	7,063
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	94	66
助成金収入	311	90
その他	17	96
営業外収益合計	423	254
営業外費用		
支払利息	12	37
為替差損	7	4
支払手数料	2	2
事務所移転費用	—	5
その他	1	5
営業外費用合計	23	54
経常利益	8,635	7,263
特別損失		
投資有価証券評価損	1,701	1,437
特別損失合計	1,701	1,437
税金等調整前四半期純利益	6,933	5,825
法人税等	2,746	2,443
四半期純利益	4,187	3,382
非支配株主に帰属する四半期純利益	208	87
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,979	3,295

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	4,187	3,382
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△131	△204
為替換算調整勘定	△2	△0
その他の包括利益合計	△134	△204
四半期包括利益	4,053	3,177
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,854	3,090
非支配株主に係る四半期包括利益	199	86

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ソフトウェア テスト関連 サービス	ソフトウェア 開発関連 サービス	その他近接 サービス	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	41,986	17,229	4,139	63,355	—	63,355
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	88	2,013	691	2,793	△2,793	—
計	42,075	19,242	4,830	66,148	△2,793	63,355
セグメント利益	10,053	1,519	346	11,919	△3,684	8,234

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,684百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ソフトウェア テスト関連 サービス	ソフトウェア 開発関連 サービス	その他近接 サービス	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	52,338	23,629	5,175	81,143	—	81,143
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	91	2,073	799	2,964	△2,964	—
計	52,430	25,703	5,974	84,108	△2,964	81,143
セグメント利益	11,400	1,064	30	12,495	△5,432	7,063

(注) 1. セグメント利益の調整額△5,432百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「企業結合等関係」の「比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し」に記載の取得原価の当初配分額の重要な見直しに伴い、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、当該見直し反映後のものを記載しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、株式会社クラブネットの全株式を取得し連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、「その他近接サービス」セグメントの資産の金額が6,337百万円増加しております。

(企業結合等関係)

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2023年5月1日に行われた当社を吸収分割承継会社とし、EQIQ株式会社を吸収分割会社とする吸収分割について前第3四半期連結会計期間に暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、主に無形固定資産その他へ配分された結果、暫定的に算定されたのれんの金額997百万円は、会計処理の確定に伴い485百万円となりました。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、販売費及び一般管理費が1百万円減少したことにより営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益がそれぞれ1百万円増加し、法人税等が0百万円増加したことにより、四半期純利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益はそれぞれ1百万円増加しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			
	ソフトウェアテスト 関連サービス	ソフトウェア開発 関連サービス	その他近接 サービス	計
エンドユーザー企業	31,874	5,635	3,901	41,411
パートナー企業	10,112	11,594	238	21,944
顧客との契約から生 じる収益	41,986	17,229	4,139	63,355
外部顧客への売上高	41,986	17,229	4,139	63,355

当第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			
	ソフトウェアテスト 関連サービス	ソフトウェア開発 関連サービス	その他近接 サービス	計
エンドユーザー企業	38,911	7,600	4,912	51,424
パートナー企業	13,427	16,029	262	29,719
顧客との契約から生 じる収益	52,338	23,629	5,175	81,143
外部顧客への売上高	52,338	23,629	5,175	81,143

(重要な後発事象)

(当座貸越契約の更新及び借入枠増額)

当社は、2024年6月25日開催の取締役会において、流動性確保を主目的として、当座貸越契約の更新及び借入枠増額について決議を行いました。契約内容は以下のとおりであります。

借入先	りそな銀行
契約更新日	2024年7月16日(予定)
契約期間	2024年7月16日～2025年2月28日(予定) (以降1年ごと自動更新予定)
借入枠	3,000百万円
借入金利	基準金利+スプレッド
担保の有無	無
保証の有無	無